



きた 北まくらはいけないというのはなぜ

「北まくら」は、死んだ人をねかせる姿

頭を北の方向に向けてねることを、北まくらといいます。お釈迦様がなくなったときの姿をまねて、死んだ人のまくらを北向きにするため、北まくらは不吉とされています。

そのため、人々は、ふだん、ねるときに、北まくらになることをいやがり、北まくらはいけない、北まくらは縁起が悪い、というようになったのです。

毎日元気に活動している人は、ねるときにわざわざ死んだ人のねる姿をまねして、北まくらにすることはありませんね。

仏教を広めたお釈迦様

仏教は、紀元前5世紀ごろに、釈迦がインドで説き、広めた宗教です。この仏教が、中国を経由して日本に入ってきて、日本でも広く信じられるようになりました。

釈迦はインド各地を布教して回り、なくなるとき、頭を北にし、顔を西に向け、右の脇を下にして、横になったといわれています。このことから、北まくらは仏教徒の人たちが、死んだときにねかせる姿になったのです。（監修・田代 脩）

